

教育のアクションリサーチ: 理論と方法

秋田喜代美

(教育学研究科)

kakita@p.u-tokyo.ac.jp

トピックス

- 1 教育分野での理論的な展開
- 2 具体的な研究の方法

アクションリサーチの提案者

Kurt Lewin (1890-1947)



- 「書物以外のものを生み出さない研究は満足なものとは言えない」
(1954. P271)
- 「よい理論ほど実際に役に立つものはない。理論は前もって体系的に詳述されるものではなく、むしろしばしばデータの展開につれて発展し精密化してゆくものです」
(マズロー 223-224)

目的としての民主主義社会形成への改善

- 「人間関係に変化をおこさせる決定要因を発見することが研究の目的であり、その目的は科学者としての役割と民主主義社会の一員としての仕事や生活様式の改善に努めるべき責任とを統合する科学者の理想である」
- ジョン・デューイ (Dewey, 1929)

「他の分野では科学的な研究成果であっても教育の分野では教育的目的に役立たない限り、科学的とは言えないし、役立つか否かは実践してみなければわからない」

アクションリサーチの特徴

目的

- アリストテレス的方法 一般原則ではなく
- ガリレオ的方法 特定状況の診断改善研究

デザイン

- 実験—統制群の群間比較ではなく、
- 単一事例の時間系列変化 螺旋的發展

研究者の関与

- 対象とするのではなく、
- 「ための、ために」共に研究する 行為主体

場の理論

- すべての行動(動作、思考、希望、努力、評価、成就等をふくめて)一定の時間単位における場の状態の変化(dx/dt)として考えられる。
- 生活空間
- 心理学的な場の変化を理解するのに物理学における dt/dx と等価なものは心理学における「行動」なる概念である。
- 全体の事態からの分析(1, 2の孤立した要素を拾い出す代わりに事態全体を考慮に入れる)
- 行動はそれが起こった時の場の関数である。

螺旋型のサイクルでの発展

実行

分析と評価

修正と次の計画へ

計画

研究の問い



教育におけるARの展開

- Stenhouse、1975
- Humanistic Curriculum project

“Teacher as Researcher”の理念

授業改善ーカリキュラム開発ー教師の専門性発達ー
学校改革

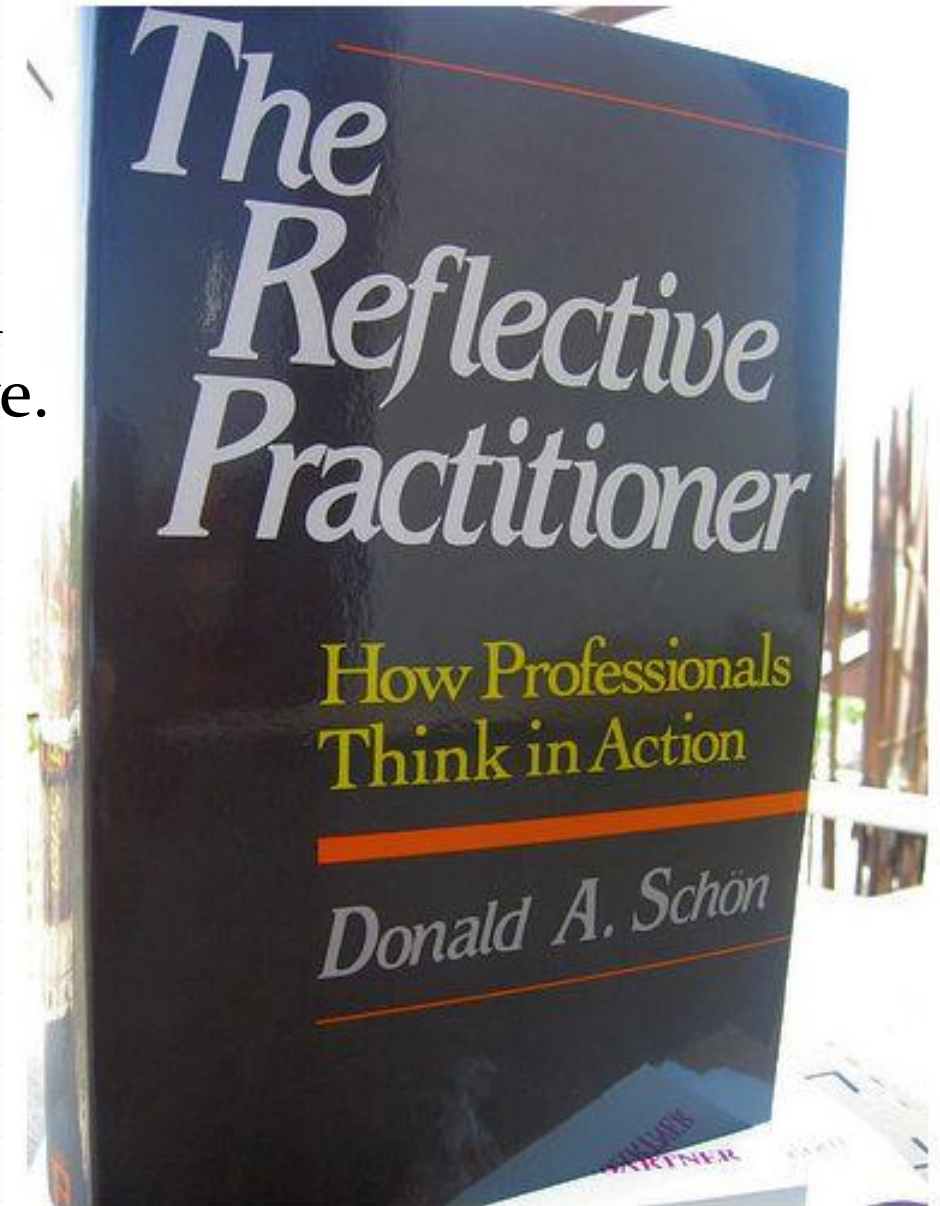
反省的実践

その後一時的に減衰するが、1990年代からフィンランドや英国でも見直されてきている。

Action Science

Organizational learning: A theory of action perspective.
Reading, MA: Addison-Wesley Publishing Company. (Argyris & Shon,1976)

反省的實踐家像



ドナルドショーンによる 2つの専門家像

- ・ 技術的合理性
- ・ 技術的熟達者

・ 実践者は学問の理論を現場へ適用する技術や知識を習得し実行する者

- ・ 行為の中での省察
- ・ 反省的実践家

・ 実践者の専門性は活動過程における知と省察にある
状況と対話をする者

2時点での省察

- A 行為のなかの省察 reflection **in** action
- B 行為についての省察 reflection **on** (after) action.
の区別

A 言語化なくして成立するものがある
状況と対話し探究し局所的なデザインを行って
いく

B 枠組みの発見と再枠組み化 リフレーミング

省察の水準

(Van Mannen、1991)

技術的省察 経験主義的分析的方法

いかにすれば

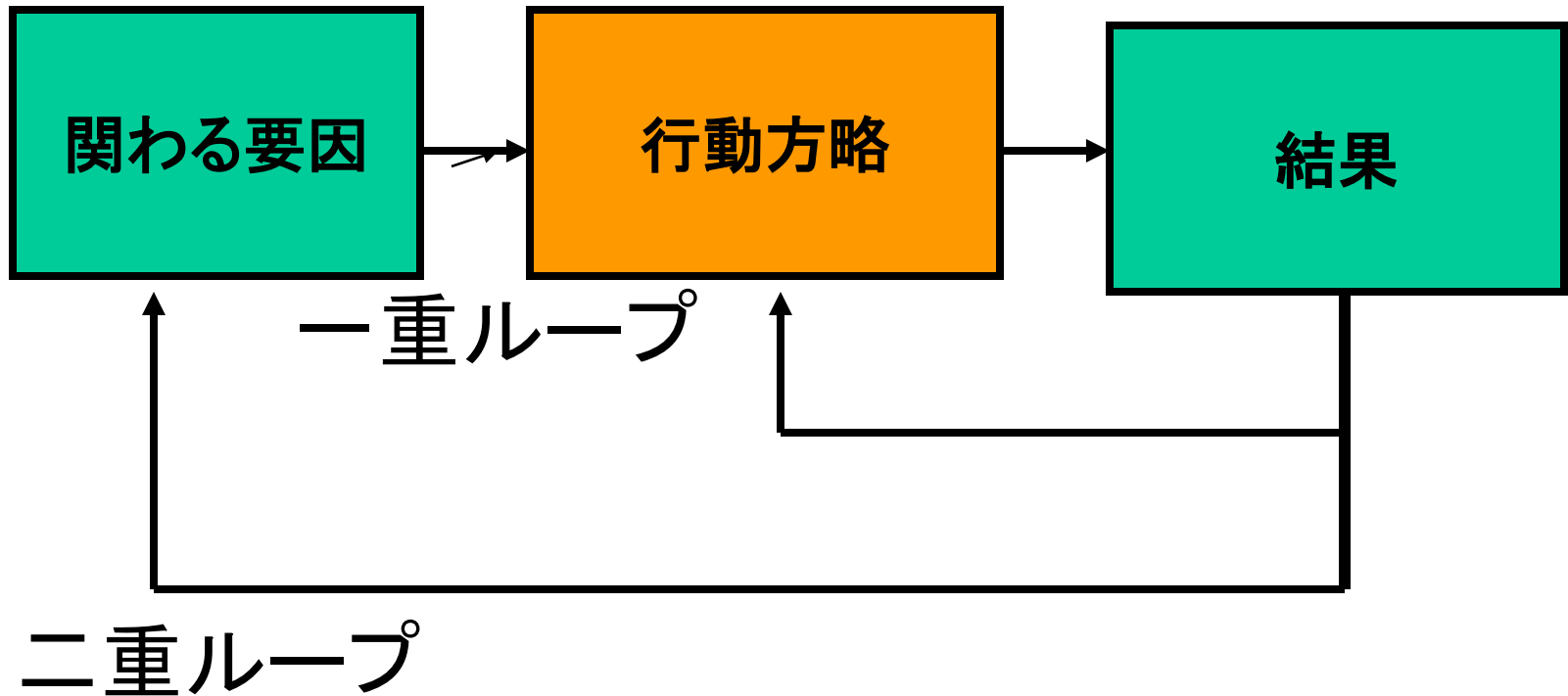
実践的省察 解釈学的・現象学的方法

その人にとってどのような意味が

批判的省察 批判的・弁証法的方法

なぜこのようなことに意味が

学習のモデル



専門家の学習のモデル

<技術的熟達者>

- シングルループ学習
自らの解釈枠組みで解釈して新たな知識を獲得し、その知識を元に意思決定や判断をする。

既存の解釈枠組みの強化。

クライアントとの対話がない。

<反省的実践家>

- ダブルループ学習

解釈枠組みに合致しない情報が次第に受け入れられるようになり、ついには解釈枠組み自体が変化することもありえる。

曖昧な状況が強い時に使われる。

クライアントや同僚との対話、環境との対話

組織のシステムとしてのARと 授業研究の違い

- 共通性

教師の専門性開発
行為と実践が重要

- 相違

開始時点

研究主体

焦点

分析とツール

研究の公表

Learning theory and learning systems

Learning theory, vision, value, rule

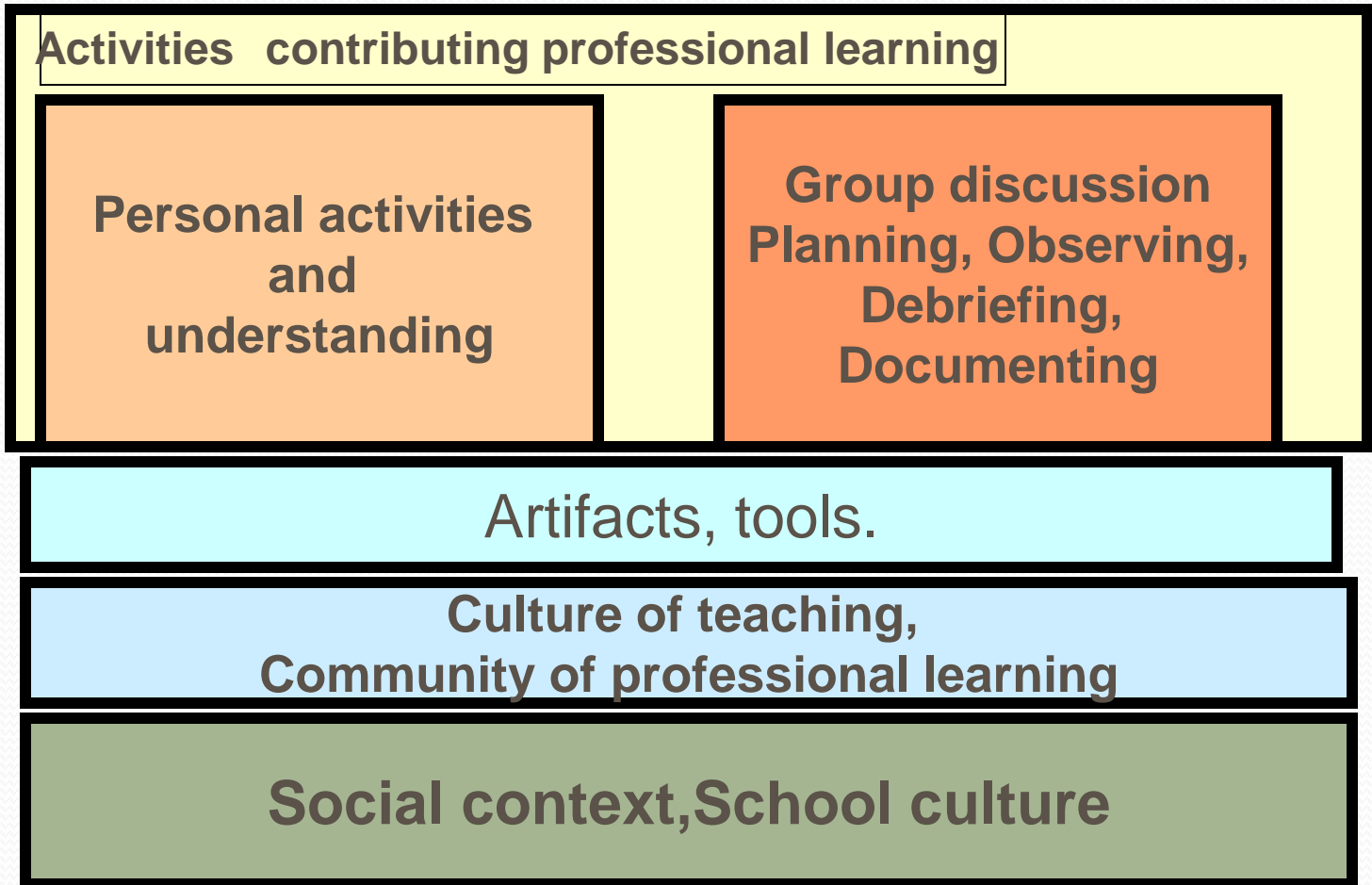


Learning systems(group,tool, media materials, resources)

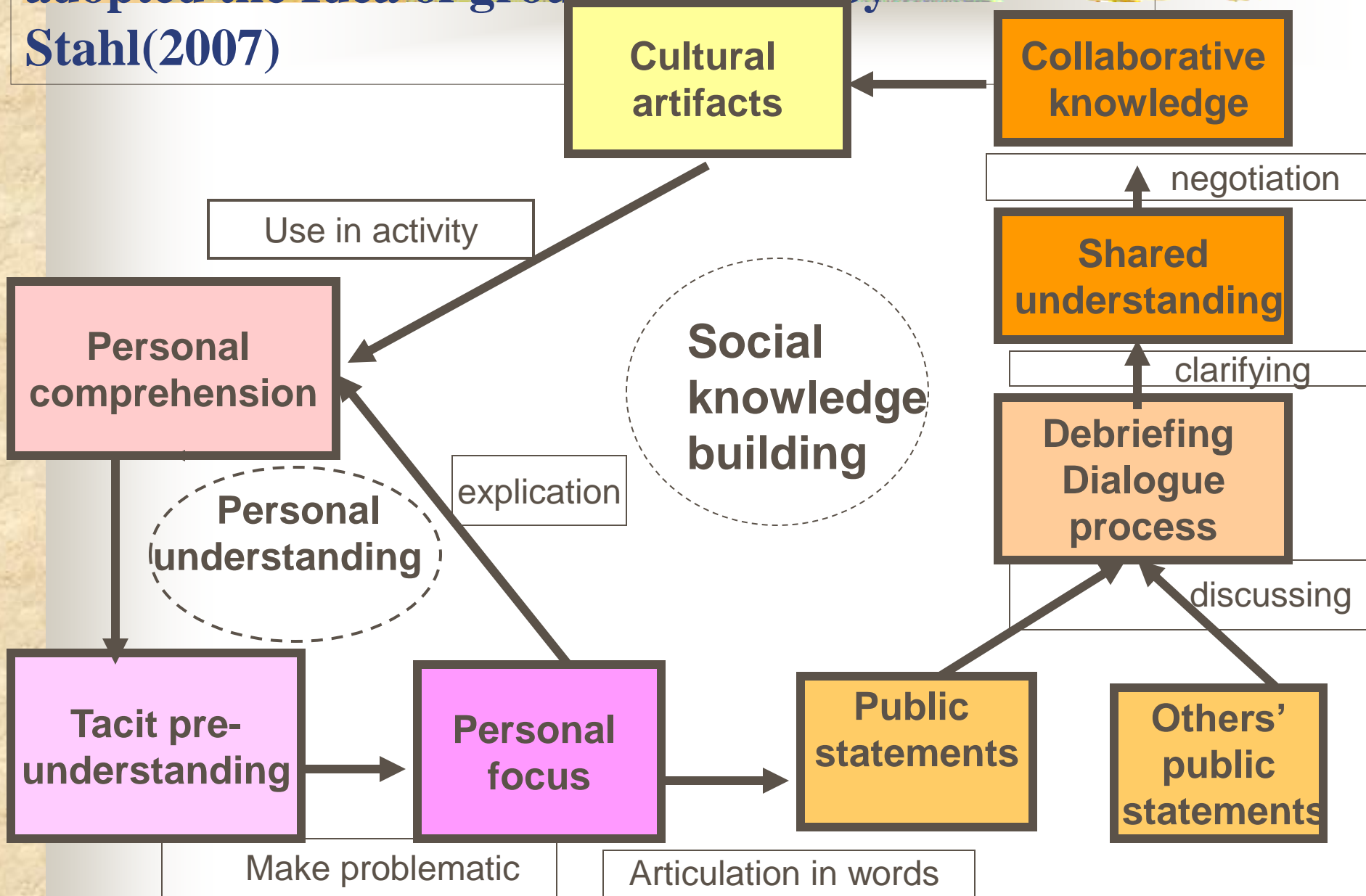


Discourse style, documentation systems

The factors of professional learning system



Professional knowledge–building processes in LS adopted the Idea of group cognition by Stahl(2007)



デザイン実験

- 学習科学の分野ではARとは別の流れとして同様のことをはかって、デザイン実践という流れもうまれてきている。
- デザイン原理を理論的に構成し、ある一定期間実施する。その間のプロセスを記述し変容を検討する。(プレポスト転移課題なども利用する)

2アクションリサーチの 具体的方法

* プロセス

計画—実施—結果の分析—考察—結果の公表

* 研究における信頼性・妥当性

妥当性

「向上性」、「実用性」、「有効性」、「確実性」

信頼性 データ収集と分析、解釈、結果導出における指標
や解釈可能性が問われる。

再枠組み化のプロセス

- 事例 ブックスタート 10年の中で

図書館司書のTさんの事例

初期の抵抗感、会場での発見、地域の子育て
支援者として、支えあう関係の認識

ボランティアの人の語り

互恵的な喜び 活動記録ノート

事後の振り返り 新たな活動の展開へ

<初期の抵抗感>

- 「私は、図書館員と言うのは、本と、未来の本を読む読者とをコーディネートする役割だと思って仕事をしてきました。杉並区では、平成12年にたまたまブックスタートの試験実施をやってもらえないかという話があり、それに協力するということになりました。その時
- 私個人の気持ちとしては、ブックスタートという活動がさほど珍しいという印象をうけませんでした。図書館員の仕事は人と本の出会いを作ること、と認識していたからです。しかし行政の立場では、とても珍しく、新鮮だというふうに受け止めたようです。・・・私たち図書館員にとっては、これまでにやってきたこと、考えてきことであり、自然なこととしてとらえ、さほどの目新しさは感じませんでした。とはいえ、実際にブックスタートとしてやっていく中で、少しずつ意識が変わり、得るものがたくさんあったことはたしかです。」
(2003年資料)
- 「杉並区では、子育て支援のためにもブックスタートをやるということがまず決まって、保険衛生部と児童部と図書館の3部の部長が集められました。・・・最初に壁になったのは図書館員でした。私も図書館員ですが、図書館と言うのは基本的に1冊でも多く本を貸し出して、0歳からお年寄りまで誰でも本を利用できるようにするという活動をしていますので、区民に絵本を2冊差し上げるといわれた時には抵抗がありました。しかもおはなし会に赤ちゃんが参加したりと、赤ちゃんに対しての活動は、ずっとやってきていました。それまでの活動には一度もひかりがあたったことがなかったので、当然絵本を差し上げるという話がもちこまれて、図書館員としては、すんなりとは受け入れられませんでした。」
(2007年資料)

<会場での発見>

- 「普段図書館のカウンターにいと、たくさんの人に会います。もちろん、子どもも赤ちゃんもいます、しかしブックスタートでは、毎回2時間くらい、4ヶ月の赤ちゃんを見続けることになるのです。これまでそのような体験がなかったので、最初はどうなるかわかりませんでしたですからあるとき、赤ちゃんに絵本をどうやってみせるのかをお母さんに説明している最中に、赤ちゃんが首をキューっと曲げて絵本のほうに顔を向けたので、私は説明しながらびっくりしてしまいました。「まだ早くて何の反応もないかもしれないかもしれませんが、そのうちに」と説明していたからです。「あらっ」と思ってよく見せてあげると、絵本を一生懸命に見ようとしていました、絵本の中身とか、選んだ本がよかったかと言うこと以前に、声をかけながら絵を見せてあげると、赤ちゃんからの反応があるのだ、ときづきました。・・・。」(2003年資料)
- 「パイロットスタデイが始まりました。これは事業担当である私が納得しないとうまくいかないだろうともっていたのですが、実際にやってみたら、見事に納得してしまっただけですね。・・・ほとんどのお子さんが首が座るか座らないかです。その子たちの目が一生懸命絵本を見ているのに気がついて、私の考え方が一つ変わりました」(2007年「赤ちゃんの笑顔から広がる地域のつながり」報告書シンポジウム記録資料)

<図書館員を越えた子育て支援者として>

- 「ブックスタートに取り掛かったころの私は、意識としてはまだ完全に図書館員で、いずれ赤ちゃんが育ったら、やがて図書館利用者になるんだな、という側面で関っていたんです。ですが、3部の部長が協力してブックスタートをすると方向づけをしたわけですから、保健師や図書館員、児童館、保育園などの現場での職員が、「子育て支援」を共通の目的にして、そのためにやれることはなんでもやろう、という意識をもつように変わりました。」（2007年資料）
- 「ブックスタートを図書館の仕事、どこの仕事という観点から考えるのではなくて、区内の赤ちゃんにどうそだってほしいのか、区民がどう育ってほしいのか、区民がどういう豊かな暮らしができるようにお手伝いをするのかと言うことで、この問題を考えていくべきだと思っています。・・・絵本のある環境の中で小さい子が育ってほしいということが社会常識になってほしい・・・そういうときが来た時にはもうブックスタートは運動としての必要はなくなるだろうと思います。私たちはそういう時代をつくりたいから、図書館の仕事を一生懸命やっています。矛盾するようですが、ブックスタートの運動が不要になることをめざしているのです。それまでなんとかこの理念や思いを伝えて、そして人が変わろうとも、行政のトップが入れ替わろうとも続けていきたいです。」（2003年資料）

<支えあう関係の認識>

- 「転居してきた方がブックスタートで私たちとはじめて話した時に、「杉並区に越してきて本当によかったです」とおっしゃってくださったり、区民の方がいろいろなところで「杉並区が子育てを応援してくれるのを実感できて、本当にうれしい」といってくださったりすることで、つづけてこられたかなと思っています。」（2007年資料）
- 「ボランティアの募集をしたのは、人手が足りないから手伝ってほしいという気持ちからではなく、・・・地域の方たちが中心となってやってくださるのが一番よいと考えたからです。・・・図書館などの関係者で予算がつかないとかがえていらっしゃる方がいるかと思います。たしかに本を購入するから予算はかかるのですが、1番の問題は人件費じゃないでしょうか。人件費のところで区民や市民の力をお借りすることで大きな力を生むことが出来るんだということを行政にアピールなさったら良いのではないかと思います。」（2007年資料）

教育系の実際の論文

1 特定の授業方法への介入

中等教育、大学での英語教育研究等では使用が多い
事前事後パラダイム

事前のアンケートから問題意識を抽出 実際のノート
指導仮説を立てる(単元計画)
方法の記述、

結果

アンケート調査、英語の課題遂行やノート変化をみる

2 システムとしての学校や保育室等の変化

教育目標やカリキュラムの変化について質的に記述

例1) カリキュラム等の変化

指導計画や実践記録、写真、観察記録、聴き取りなどから
問題の抽出課程—確定した内容の記述—具体的な開発と
しての実践、経過の手順と質的な記述—結果の報告

例2) 空間編成を2段階で変化させる

環境構成図ならびに写真の使用 具体的な行為を分析し
ステージごとの変化を分析する

- 3 長期的な学校での全体方針を質的に描くことでその変化をとらえる

教育困難校 カンファレンスから問題の導出

生徒の実態把握の尺度を使用

介入プログラム

毎回のプロフィールの変化を描く

具体的なエピソードをプログラム実施中から取り出す

Result 1 Participant structure of the meeting

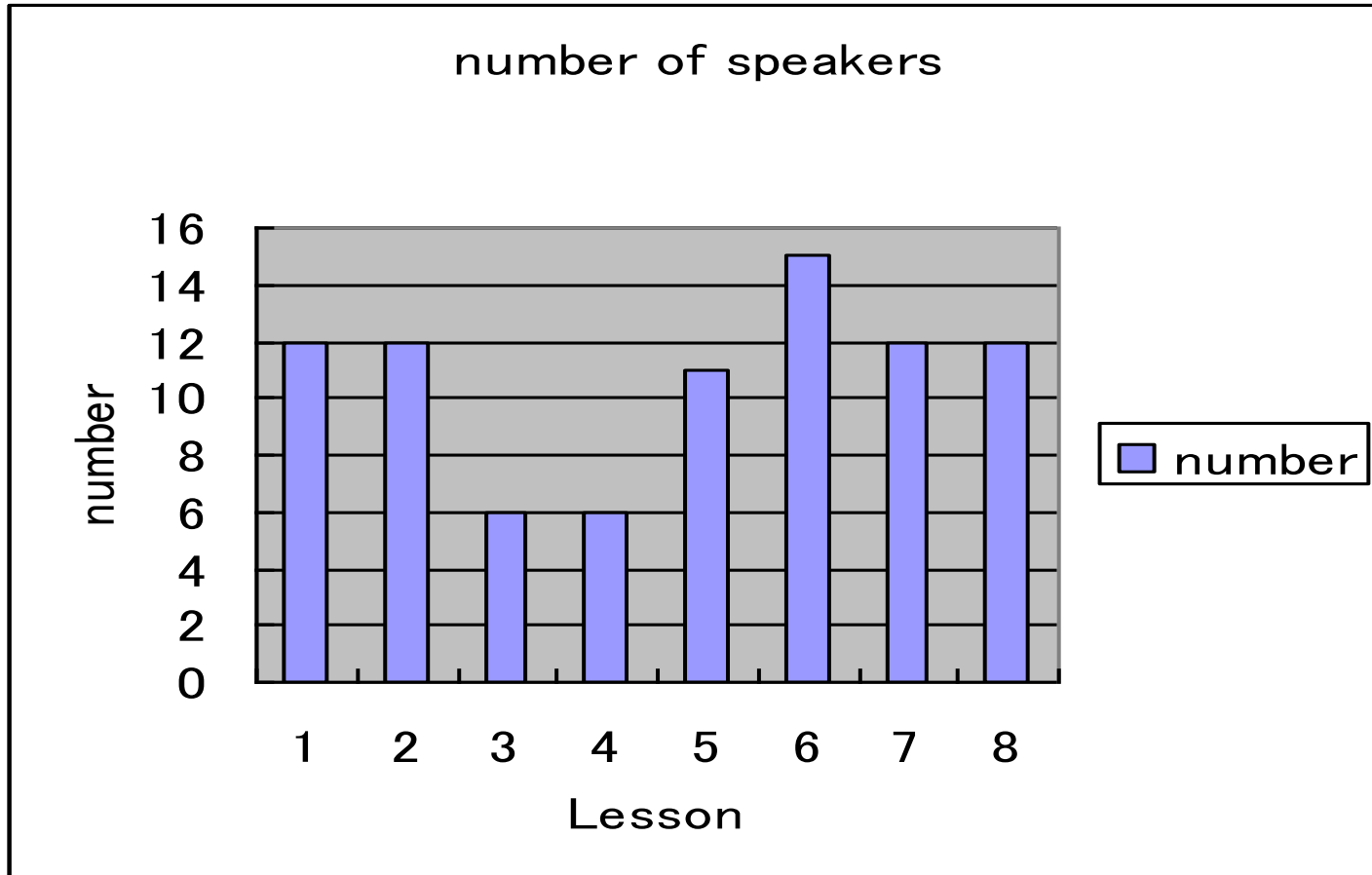


Time	I (2000)	II (2001)	III(2001)
Lesson teacher	13.1	18.6	7.5
Chair	5.8	4.2	2.5
Other teachers	25.7	29.8	17.9
Principal	2.5	0.1	0
Supervisor	53.0	47.4	72.2



- Table shows that the principal and chair do not talk much in the session.
- The half of the utterances in the meetings was spoken by the supervisor. It shows that the role of the supervisor was critical at the beginning of the lesson study.

Fig.1: the numbers of teacher speakers in the meeting



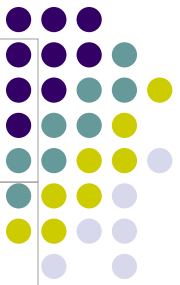


- More than half of the teachers talked in the formal setting of LS meeting.
- Interestingly, even when the numbers of speakers are the same, the teachers who talked changed dependent on lessons.
- The persons who speak in every lesson studies are a few. There is none who dominates the discourse of the LS meeting.

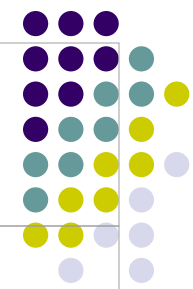
Result2 Categorization of the utterances in lesson study



- Coding labels are identified from the utterances by modified grounded theory approach(M-GTA) (Kinoshita, 2003). The unit of coding is based on one utterance.
- Six-teen subcategories are extracted from the eight lesson protocols. After making the subcategory, higher-order category are labeled from the perspective on teacher learning.



Category	Subcategory
A Sharing the feeling and impressions with others	1 Talking about impression, feeling for the lesson
	2 Acceptance, agreement, revoicing of other talk
B Finding and connecting the episodes in the lesson	3 Pointing episodes and facts in the lesson
	4 Relating a episode with other episode in the lesson
C Connecting the lesson with other lessons	5 Relating the lesson with previous lessons , comparing practices
	6 Referring similar practices of other teachers
	7 Talking about other practices related with the lesson



D Meaning making from the wider and high-order perspectives

8 Paraphrasing in the different expression, valuing the lesson

9 Extracting abstract conception, principle from the episode,

10 Giving a different perspective

11 Reframing and converting the value of the episode

12 Giving an wider context and principles of subject matter

13 Talking about children's development

E Making prescriptions on teaching, curriculum, Materials and environment

14 Talking about how to cope with the situation and what to do

15 Talking about curriculum, general aspects of teaching

16 The others utterances except for 1-15 category

T: (silent)

S: In short, there are two types of comprehension. One is understanding in your head and another is appreciation in your heart. Teachers are not satisfied with understanding all the things in your head logically and perfectly. First you have to listen children's talk to appreciate it. When you cannot understand child's talk but feel it is interesting, you have to say " Oh, it is great! Would you repeat again ?" You listen her words again and you find what word of the talk you like. Listening and orchestration with children's voices is important. To do orchestration, you have to keep pace with children and fit your breathing to their breathing



Result 3 Discourse structure of LS



- The characteristics of discourse in the school is the discussion with facts based and with high-order theory making of learning and reframing teachers' epistemological belief.
- Learning from lesson study does not mean learning about the research lesson but reflecting on their own every-day practices.. The structure of discourse in lesson study enables to foster teacher learning and teacher collaboration.

研究における困難

- トライアングレーションの保障やシステムの変革の記述が十分になされている研究は少ない
- 質的研究を用いると量的に学会誌等の頁数の問題が関与するために特定の学会誌等に傾く傾向が出てくる
- サイクルとしての課題の導出は弱く短期間のものになりやすい。
- 公開時の論文の書き方と倫理